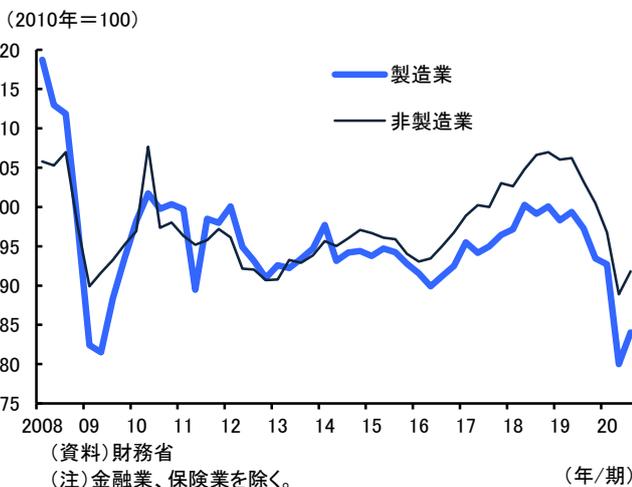


## 2020年7～9月期法人企業統計の評価と2次QE予測

- 7～9月期の法人企業統計季報によると、全産業ベースの売上高は前期比+3.8%と、5四半期ぶりの増収（図表1）。製造業は、内外の耐久財消費を中心とした持ち直しを背景に、輸送用機械など幅広い業種で増収。非製造業も、緊急事態宣言の解除を受けた営業の再開や人出の回復により、増収に転換。売上の増加を受けて、全産業ベースの経常利益は同+33.7%と、6四半期ぶりの増益（図表2）。もっとも、夏場の新型コロナの感染第2波もあって、外出自粛や「3密」回避の動きが継続したことから、運輸業、宿泊・飲食サービス業、生活関連サービス業などでは赤字が継続。
- 設備投資（ソフトウェア投資を除く）は、全産業ベースで前期比▲1.3%と、2四半期連続の減少（図表3）。先行き不透明感が続くなか、新型コロナの影響を大きく受けた業種を中心に投資抑制の動き。進捗ベースで計上されるため、自粛期間中の発注減が遅れて反映されている面も。
- 今般の法人企業統計等を織り込んで改定される7～9月期の実質GDP（2次QE）は、設備投資と公共投資が上方修正となる見込み。その結果、成長率は前期比年率+22.0%（前期比+5.1%）と、1次QE（前期比年率+21.4%、前期比+5.0%）から小幅上方修正される見込み（図表4）。

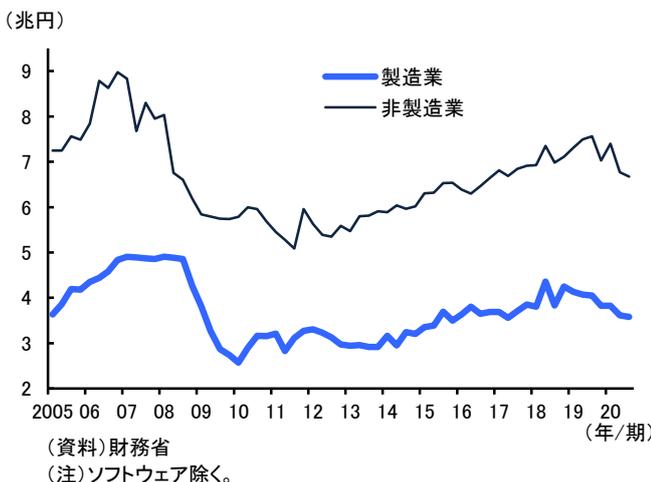
（図表1）法人企業の売上高（全規模、季調値）



（図表2）法人企業の経常利益（全規模、季調値）



（図表3）法人企業設備投資額（季調値）



（図表4）2020年7～9月期2次QE予測

(%、%ポイント)

	1次QE		2次QE	
	前期比	前期比年率	前期比	前期比年率
実質GDP	5.0	21.4	5.1	22.0
内需 (寄与度)	(2.1)	(9.3)	(2.2)	(9.8)
民間 (寄与度)	(1.5)	(7.1)	(1.6)	(7.4)
個人消費	4.7	20.1	4.7	20.1
住宅投資	▲ 7.9	▲ 28.1	▲ 7.9	▲ 28.1
設備投資	▲ 3.4	▲ 12.8	▲ 3.0	▲ 11.4
民間在庫 (寄与度)	(▲ 0.2)	(▲ 0.8)	(▲ 0.2)	(▲ 0.8)
官公需 (寄与度)	(0.5)	(2.1)	(0.6)	(2.4)
政府消費	2.2	9.3	2.2	9.3
公共投資	0.4	1.5	1.2	4.9
公的在庫 (寄与度)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
外需 (寄与度)	(2.6)	(10.0)	(2.6)	(10.0)
輸出	7.0	31.3	7.0	31.3
輸入	▲ 9.8	▲ 33.8	▲ 9.8	▲ 33.8
名目GDP	5.2	22.7	5.4	23.5

(資料)内閣府、財務省などを基に日本総研作成

【ご照会先】 調査部 副主任研究員 成瀬 道紀 (naruse.michinori@jri.co.jp , 080-4172-8107)